住まい活動助成

菅島の未来を考える会

三重県鳥羽市

空き家のモデルハウス化による移住定住の促進と離島留学の支援活動

改修前の空き家で、メンバー集合

団体設立経緯

平成27年（2015年）11月、鳥羽市小中学校統合計画が策定され、島に唯一残る菅島（すがしま）小学校は統廃合対象となってしまいました。私たちが暮らす**菅島**のような小さな離島にとって、小学校は地域コミュニティの中心であり、小学校がなくなるということは、今以上に過疎高齢化を進めることになってしまいます。

私たちは、子どもたちと菅島の未来のために統合計画に反対。小学校を島に残し、今後しばらくは学校統合の話が持ち上がらないくらい強い地域をつくることを目指し、2016年7月に「**菅島の未来を考える会**」を設立しました。

活動概要と活動対象範囲

私たち菅島の未来を考える会が設立したきっかけは学校統合問題でしたが、その目的は「菅島の輝かしく豊かな未来を実現すること」です。小学校の統合を阻止するための署名集めや教育委員会との統合協議会から始まった活動は、徐々に島全体の活性化のための活動へとシフトしていきました。

2019年度からは「新しい産業・価値の創出」「移住定住の促進」「教育環境の充実」を活動の柱として、すじ青のり養殖実験や空き家整備、離島留学の推進などに取り組んでいます。

活動に至った理由や背景

これまで私たちは、少子化の中で安定的な児童確保のために**離島通学・離島留学**を進めたり、移住定住のきっかけになるように**漁業体験ツアー**を開催したりしてきました。しかし、留学家族や移住者が生活する住まいが整備されていないという大きな問題がありました。新しい土地で生活する移住者に最も必要なのは、地域住民のあらゆる面からのサポートと安心して居住できる住まいです。

そのために、近年島内に増えてきた**空き家**を活用することにしました。空き家の調査や改修・整備を進め、それを留学する家族や移住者の方に使っていただけるようにする活動です。「使わなくなった空き家をうまく使えばこんなことができます！」ということを内外にアピールするため、まずは1軒、モデルハウスのような拠点がどうしても必要となりました。

その拠点となる空き家を活用し、これまで続けてきた漁業体験ツアーに体験移住を組み込んだ「**移住・漁業体験ツアー**」の開催や、子育て家族向けの「**離島留学体験**」などのイベントを開催しつつ、長期的な移住定住の取り組みにつなげていきたいという狙いがありました。

活動内容と成果

1. 空き家の選定とオーナーとの交渉

空き家の選定に関して、候補となる数軒に対して調査をしていました。そのうちの1軒について、私たちの活動についてご理解を示していただき、お話を聞いていただけるということでしたので、その空き家のオーナーとの話し合い・交渉を開始しました。

小さな島ですので、「島民みな家族」という意識も強く、もちろん空き家オーナー様とももともと顔見知りです。当会の会員とも普段から親しくさせていただいている方ですので、快く空き家を貸していただけるということで、無事賃貸契約を交わすことができました。

2. 活動のテーマと計画

私たちの活動のテーマは「空き家のモデルハウス化による移住定住の促進と離島留学の支援活動」です。「住まいとコミュニティづくり活動助成」の採択を受け、助成による活動の目標を「空き家1軒を居住できるように改修し、私たちの活動の象徴となるような**移住モデルハウス**として整備すること」「改修したモデルハウスを利用し、**移住体験イベント**（仮）を開催すること」「移住者を募るための**ホームページ**や**チラシ**を作成すること」としました。

そしてモデルハウスとしての機能だけではなく、長期的には、移住希望者が実際に現れた場合の居住住宅としても使えるようにすること、またこの1軒目の空き家を起爆剤に、この活動が島内に広く認知され進んでいくことを視野に入れ、活動をスタートさせました。

3. 空き家の改修設計

当初の計画ではすべてを業者に委託することを考えていましたが、改修が必要な箇所が予想より多く、資金不足となることが判明。自分たちでできることは、自分たちですることにしました。

業者に委託する作業は専門的な知識や技術が必要な水回りの改修などのみとし、塗装などはDIYで対応しました。

4. 空き家の片づけと改修

数年前まで実際に居住されていた家ということもあり、まずは空き家内の片づけが主な作業となりました。当初の予定ではオーナー家族に来ていただき、指示を仰ぎながら短期間で不要なものを処分する予定でしたが、ご存知の通り2020年4月7日に7都府県で緊急事態宣言が発令、4月16日には全国へ範囲が拡大されました。

医療体制が充実していなく、また高齢者の多い離島ということで、感染症を蔓延させてしまうリスクから島への移動、島からの移動が厳しく制限されてしまいました。予定していた片づけ・改修作業も大幅に

賃貸契約を結んだ空き家。費用節約のため、不用品の処分から壁塗りまで、自分たち中心で改修に勤しんだ

大掃除と改修が完了した2階のリビング。コロナ禍で移住体験の受け入れはひとまず中止になったものの、準備は万端だ

WEBサイトを立ち上げたり、パンフレットを作成したりして、情報発信に力を入れる

遅れることになってしまい、その後の活動もスケジュールの見直しを余儀なくされる状況でした。約1か月後に緊急事態宣言が解除されましたが、依然島への行き来が難しく、片づけが終了したのは7月でした。

その後、業者による改修、DIYを経て、細かい作業は残ったものの、概ね予定していた空き家の改修・整備は移住体験イベント開催予定（中止：後述）の11月までに完了することができました。

5. 活動内容についての情報発信

活動内容を広く周知するための「WEBサイトでの情報発信」については、計画通り6月に「**菅島の未来を考える会のWEBサイト**（https://sugashima.net/）」が完成し、その後、ブログ投稿により定期的に情報発信を継続しています。また、**菅島の未来を考える会のFacebookページ**（https://www.facebook.com/sugashima.fan/）による情報発信も継続して実施しています。

情報発信の内容は、本プロジェクトに関係する「空き家活用」「移住定住・離島留学」のほか、当会の活動の一部である「すじ青のり養殖実験」「菅島小学校コミュニティ・スクール」の話題、その他地域の話題など多岐にわたっています。

移住者のためのチラシについては、**移住者向け菅島情報パンフレット「菅島住んでみやん?」**を作成しました。島外から嫁いで今まさに子育てに奮闘するお母さんや、稼業のために島にUターンした会員の意見を集約。「移住を考える方は、菅島のどのような情報を望んでいるのか」ということをテーマに、他の地域と比較した菅島での子育てや暮らし、産業、文化などのポイントをまとめました。

6. 離島留学先進地視察

完成した移住モデルハウスでは、離島留学家族の体験移住などを推進していく予定です。菅島の隣の島で県内最大の離島である答志島（とうしじま）では、2017年より離島留学事業を実施しています。私たちの活動と同じように、離島留学を始めるにあたり島内の空き家を何軒か改修・整備をしているということをお聞きしましたので、2020年9月13日、空き家の整備状況などの視察に赴きました。菅島側からは3名が参加しました。

当日は、答志島和具地区で離島留学生や留学家族のために整備された空き家をいくつか見学したほか、そのうちの1軒で意見交換会を実施しました。離島留学を始めることになった経緯や問題などについて、お話を伺いました。同じ市内の離島でも環境や抱える問題は異なります。単に答志島の真似をしたらいいということではなく、菅島は菅島らしく、その強みを活かして進めていくことが大切だと感じました。

7. 移住定住イベントの中止とオンラインイベントの開催

これまで私たちは移住定住施策の一環として、漁業体験ツアー「海藻塾」の開催を通して、島の生活や文化を知っていただく活動を続けてきました。今年度は、より菅島での生活をイメージしやすくするため、本活動のモデルハウスによる移住体験を付加し、移住・漁業体験ツアーを開催することを計画していました。

しかし、新型コロナウイルスの影響により、感染拡大を防止するという観点からこのイベント自体を中止せざるを得ないという状況となりました。モデルハウスを活用した移住体験イベントの開催は、対外的にも本助成事業による目玉でしたので、開催を断念するのは非常に苦しい選択となってしまいました。

離島留学事業で先行している隣島を視察。空き家活用事例の見学後、意見交換も実施

リアルの移住定住イベントは中止せざるを得なかったが、オンラインイベントを実施。島に興味がある人とネットを通じてやり取りした

代替のイベントとして、移住スカウトサービスSMOUTと離島経済新聞社が共催する**オンラインイベント「お茶の間 島留学」**に参加し、移住定住の推進を図りました。期間は9月12日から11月26日まで、8名が参加しました。

8. まとめ

新型コロナウイルス感染拡大防止のために活動が思うように進まないこともあり、今年度の活動の目玉であった、モデルハウスを利用した移住体験イベントの開催を断念することになってしまったのは残念でした。とはいえ、一番の目標であった、空き家1軒を改修しモデルハウスとして整備することはできました。

移住体験イベントは開催できなかったものの、コロナ禍でも開催できる代替イベントとしてオンラインイベントに参加し、移住定住・離島留学の活動をアピールできたこと、またWEBサイトの作成・運用やパンフレットの作成は計画通り実施できたことは、今後の活動につながると思います。

9. 協力団体・関係各所など

鳥羽市企画財政課：移住定住推進支援／鳥羽市教育委員会：離島留学推進支援

課題と解決方策

空き家の契約前後で発令された緊急事態宣言により、高齢者が多く医療体制も整ってない離島への移動が厳しく制限されました。それによりオーナーが来島できず、片づけや打ち合わせの日程が大幅に遅れてしまいました。

改修委託業者の工事日程も当初の予定よりずれ込むことになり、思うように進めることができませんでした。遅れた分を取り戻すべく、他の班の人員を動員して片づけや整備に取り組みました。

また、モデルハウスを利用した移住体験イベントについてぎりぎりまで開催を検討するも、結果的に開催することはできませんでした。しかし、開催が危ぶまれたタイミングでオンラインイベントに切り換え、違う形で実施することができました。オンラインイベントへの参加を通して今後につながる出会いもあり、早めに方向転換できたことが良かったと感じています。

さらに年度途中からは、今後モデルハウスを利用した移住体験・留学体験を進めていくうえで必要な民泊申請について申請手続きを開始しました。こちらは改修工事の遅れもあり、思うように進めることができませんでした。

今後の予定

目標であった空き家の改修を完了させることはできましたが、これはゴールではなくスタートです。モデルハウスは最終的な目的ではなく、これを有効活用して地域への人の流れや移住定住者・離島留学家族を増やすというのが私たちの目指すべきところです。

まずは今年度実施することのできなかった、モデルハウスを利用した体験移住イベントを開催することを目指します。また、受け入れ態勢をより充実させるという点で、2軒目、3軒目へと活動を広げていく予定です。

菅島の未来を考える会

2016年7月設立／メンバー数：49人／代表者：小寺 雄一（こでら・ゆういち）
●〒517-0004　三重県鳥羽市菅島町305
☎090-7670-2361　info@sugashima.net
sugashima.net　www.facebook.com/sugashima.fan/

私たちは、菅島の輝かしく豊かな未来を実現することを目的として、「新しい産業・価値の創出」「移住定住の促進」「教育環境の充実」の3つの活動に取り組んでいます。